



下末吉だより

令和8年6月30日

7月号

横浜市立下末吉小学校

安心して相談できる大人になるために

校長 千葉 寛興

いよいよ、明日から7月、令和8年も後半に入ります。しかしながら、すでにいくつか台風がやってくるなど、いつもの梅雨とは異なる様相を見せています。また、5月29日に気象庁から新しい防災気象情報が発表されました。それに合わせて学校からもお知らせを発信させていただいています。引き続き、子どもたちの安全確保と学校教育活動が両立できるように、適宜、情報発信に努めてまいります。

さて、私は児童福祉に係る方や児童の性被害・加害に関する専門家の方、教育に関係しない異業種の方とお話する機会が多い6月でした。そのいずれの会合でも共通して話題に挙がったのが、SNS や生成 AI に関連する事柄でした。

いずれの方においても、近年では事前に SNS 上の投稿を確認する人や、生成 AI で調べた上で、ご相談に来られる方が増えているとおっしゃっていました。一方で、断片的な情報を根拠に、専門家の意見や提案について理解を得ることが難しくなっているというお話を伺いました。また SNS 分析を仕事で行っている方は、SNS の仕組みの性質上、提示される情報に偏りが生じてしまうこと、生成 AI は学んだ情報の内容により回答に癖が出ること、そして利用者のプロンプト(指示)の内容が回答に大きく影響することなどを伺いました。そして、性被害・加害の支援に係る専門家の方は、SNS にしか思いを述べる場をもたない子どもたちに届く大人の支援の在り方について、ご意見をいただきました。

このようなお話を伺った後、たまたまある 10 代の方とお話をする機会がありました。私から上に書いたような内容の話をすると、その方は、「大人は子どもが決めたような感じで、自分たちの意見を主張することがあるから、意見を押し付けない SNS に頼るのではないかと、答えてくれました。そのことについてもう少し話を聞いてみると、「大人は今までの経験があるから何が良い結果をもたらすか分かるが、子どもは狭い経験で考えなくてはならないから、大人の説明に納得できないときがある。そういう時には、子どもが納得できるように、なぜそう考えるのか丁寧に説明してほしい」とことや、SNS等によって、子どもたちが実際の人間関係の中で成長していく機会を損なっているのではないかと考えることも聞くことができました。

私はこの方の話を聞いて、多くのことを考えさせられました。思えば、かつて子どもだった自分も当時の大人の話を素直に聞けず、うまくいかなかったことがありました。しかしながら、自分の思うようにやって失敗することを通じて、大人の忠告の意味を理解していったのも事実です。一概に言い切れませんが、子どもたちは、大人にはもう少しゆっくり自分たちの成長に付き合ってほしいのではないかと感じました。

サン＝テグジュペリが「星の王子様」の中で、「おとなは、だれも、はじめは子どもだった」と書いているように、大人の誰もが子どもであった経験があります。その事実、SNSや生成AIにはできない共感をもって子どもたちに寄り添うことができる可能性を示しています。今一度、子どもたちに寄り添う学校になっているか、自らを省みる 7 月にしていきたいと思います。



下末吉小学校 HP